copro
Go Beyond, Go Together.

2022 年 8 月 8 日
株式会社コプロ・ホールディングス
経営企画室

個人投資家向けオンライン会社説明会 質疑応答要旨

2022 年 7 月 27 日開催の個人投資家向け会社説明会における質疑応答要旨を開示いたします。なお、質疑応答要旨については、ご理解いただきやすいよう表現の変更や加筆・修正を行っています。

Q：認知度向上を目的とした広告宣伝施策は効果が出ているか。
A：名古屋バンテリンドームのベンチシート内看板および豊田スタジアムの LED 看板の広告は応募数の追いかけが難しいが、芸能人を起用した YouTube 広告は新卒社員の応募数増加の効果が出ている。

Q：2023 年 3 月期が増益となる場合、増配の可能性はあるのか。
A：中期経営計画期間において一株当たりの年間 40 円を下限配当とし、減配は行わない方針を掲げている。増配は事業年度毎の業績を加味し、検討していきたい。

Q：足元の株価が低迷しているが今後上昇する見込みはあるか。
A：直接的な株価向上策は存在しないため、毎期の業績目標を達成させ、当社の成長性を株式市場から評価されるよう努めていきたい。清川個人の見解としては、当社の将来性について市場から十分な評価を得られていないと感じている。

Q：現預金を多く保有しているため、自社株買いを毎年続けてはどうか。
A：自社株買いは株主価値を高める一手だと認識しているが株式流動性の観点も鑑み、慎重に検討する必要がある

Q：2023 年 3 月期は採用費用の増加による減益予想だが、来期の見通しはどうか。
A：中期経営計画通りに進捗し、2024 年 3 月期は過去最高益を目指したい。技術者の獲得競争が激化している環境下において、当期は採用費を投下し優秀な技術者の確保を行うことで次年度以降の業績拡大へ繋げていく。

Q：20 27 年 3 月期計画の売上高 400 億円、Non-GAAP 営業利益 50 億円は達成する自信があるか。
A：中期経営計画は社内で議論を重ね設定した。達成する自信はある。計画達成に向け、全社一丸となり邁進していく。

Q：海外展開についてベトナムを選んだ理由はなにか。また次の候補地は考えているか。
A：ベトナムは、ASEAN 諸国の中でも人口が多く労働力が豊富であること。また、日本での就業希望者も多いなど、日本国内の労働人口不足といった課題解決に適していると判断した。

ベトナムの最終選定段階ではフィリピンも検討していた。まずはベトナムでスキームを完成させた後に、進出先の拡大を考えたい。

Q：社内取締役は営業経験者が多いが、今後は他のスキルや他企業で経験を積んだ方を迎え入れる必要があるのではないか。
A：企業価値向上において、取締役会の多様性が重要であることは認識している。現在のボードメンバーが力不足であるとは思っていない。

Q：2027 年 3 月期の売上高計画 400 億円に向けた年平均成長率 20.7%に対し、中期経営計画初年度である 2023 年 3 月期の売上高は前期比+14.5%と自信がないように伺える。一方、権利行使義務条項型や業績連動型の有償ストックオプションを発行している。今後の業績に対する自信について、改めて教えてほしい。
A：中期経営計画の達成は自信を持っている。株主の皆様と当社役職員が企業価値を共有していくことを目的の一つとして、有償ストックオプションを発行した。

Q：手元の現預金は自社株買いではなく、M&A や配当に回すべきではないか。
A：自社株買いの実施を含め、投資案件は慎重に検討する。M&A は非連続な成長を実現するための戦略として重要だと考えている。資金調達は手元の現預金、銀行借り入れ、エクイティファイナンスの順に検討していく。

以上